

能力アップの
活発化する
薬剤師認定制度の
取り組み

認証プロバイダーが連絡協議会 認証研修制度のポータルサイトを検討

一般社団法人 薬剤師あゆみの会理事長

狭間 研至

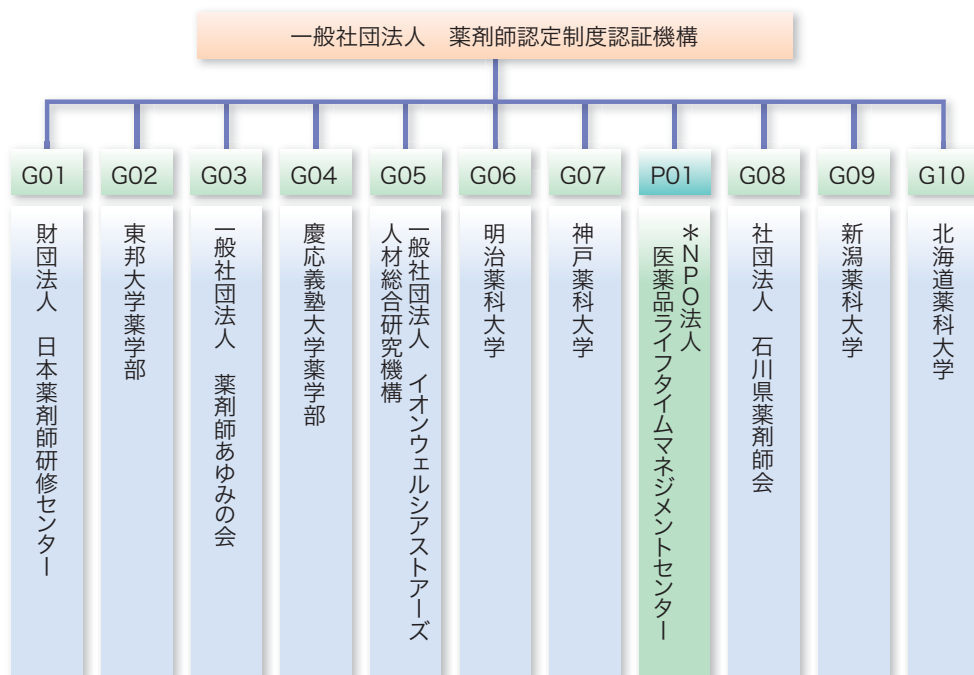
大阪に続々と集結した人々

平成 21 年 2 月 28 日。風はまだ冷たいものの、日差しは春らしい土曜日の午後のこと。JR 新大阪駅近くの会議室に、30 人あまりが集まりました。その会議の名前は、「第 3 回認証プロバイダー連絡協議会」。参加メンバーは、いずれも薬剤師認定制度認証機構（以

下、認証機構）の認証プロバイダー（図 1）として薬剤師生涯研修に取り組む方々です。

同様の会は昨年 の 2 月、9 月に続いて 3 回目で、今回は、私ども薬剤師あゆみの会（G03）が担当することになったものです。今回の会には、ほとんどの認証プロバイダーの代表者・実務担当者が出席、また、オブザーバーとして、認証機構の内山充代表理事（代理）、

図 1 認定薬剤師制度の仕組み



*特定領域認定制度

厚生労働省医薬食品局の関野秀人企画官にもご出席を頂き、定刻通り会議が始まりました。

厚生労働省企画官からエール

会議では、認証機構の内山充代表理事と厚生労働省の関野企画官から、各認証プロバイダーが積極的な取り組みを展開していることへのエールを頂いたあと、前半は各プロバイダーが研修実績などを中心に発表しました。どのプロバイダーも、その活動を活性化・活発化させており、認証プロバイダーの増加とともに、新しい認定薬剤師制度が、いよいよ本格的に稼働しはじめたことを実感しました。

後半は各プロバイダーから色々な問題提起があり、それに対して各々の経験や知見を交えた活発な討議が行われました。

その中で、受講される薬剤師の方々に対する、情報の整理と適切な広報活動がポイントになりました。

各認定制度は認証機構の下に並列

読者の皆様の中でも「認定薬剤師」や「認証プロバイダー」との関係やその仕組み、特に（財）日本薬剤師研修センターと他の認証プロバイダーとの関連がわかりづらいという方も多いと思います。

図1のように各プロバイダーは認証機構の下に並列に存在し、それぞれに特色を持つ独立した存在です。「認定薬剤師」の認定業務を行うと共に、認定薬剤師取得のための単位は、同質・同等のものと認め互換性を持たせています。これは、大学薬学部がそれぞれ建学の精神を持ちながら特色ある薬剤師の育成を行っていることと似ているかもしれません。

薬剤師は、認定薬剤師取得のための単位を複数のプロバイダーから取得しながら、自分の好きなプロバイダーから「認定薬剤師」としての認定を受けられます。

たとえば、私ども薬剤師あゆみの会（G03）では、開局薬剤師が多いという特性を活かし、「在宅医療についても学べる」という基軸を打ち出して、講義の内容もそのあたりを充実させていっています。臨床実務的な内容は、G03で学びながら、基礎的なものは母校や近隣の大学の単位で補い、認定薬剤師はG03で取得するといったことでバランスのよい生涯研修が可能

表1 認定薬剤師制度のポイント

- ・認証機構の下に、複数の「認定プロバイダー」が併在する。
- ・それぞれの「認定プロバイダー」が発給する単位は、同質・同等であり、互換性がある。
- ・それらの単位を集計し、それぞれの薬剤師が好ましいと思うプロバイダーから「認定薬剤師」としての認定を受ける。

になります。

また、逆に、病院薬剤師の先生で、地域の開局薬剤師の実務のことも勉強しておきたいという方は、その部分だけG03やG05、G08の講義を受けた後、単位の互換性を活かして他のプロバイダーの認定薬剤師を取得するということができるわけです。もちろん、地理的・時間的制約はありますが、たとえば、私どもG03では、e-learningシステムも稼働させていますので、こういったIT技術の恩恵を活かすことで、解決していけるでしょう。

情報の整理と適切な広報活動

現在、何かを調べる手段としてインターネットがインフラとして整備されています。薬剤師の生涯研修についてもネット検索をかけた方は多いと思います。

ただ、現在は、図2-1に示したように、それぞれの認証プロバイダーがHPを持っていますが、その連携がないために、薬剤師にとって制度や仕組みを理解しづらいのが現状です。

また、各認証プロバイダーが、その仕組みや発行している認定単位などについて、微妙に異なる表現を用いて説明していることも混乱に拍車をかけているのかもしれない。

そこで、今回の協議会を契機に、認証プロバイダーのポータルサイトを開設。そこにアクセスすればこれらの仕組みを理解できるとともに、研修会データベースと連動させることで、各認証プロバイダーで行われている研修会等を簡単に検索できる仕組みが構築できないか検討し始めています。

図2-1 現在の各認証プロバイダーの広報状況

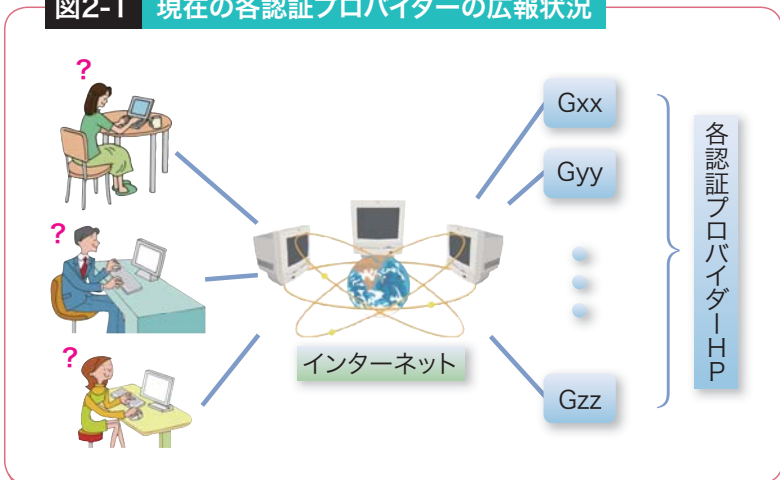
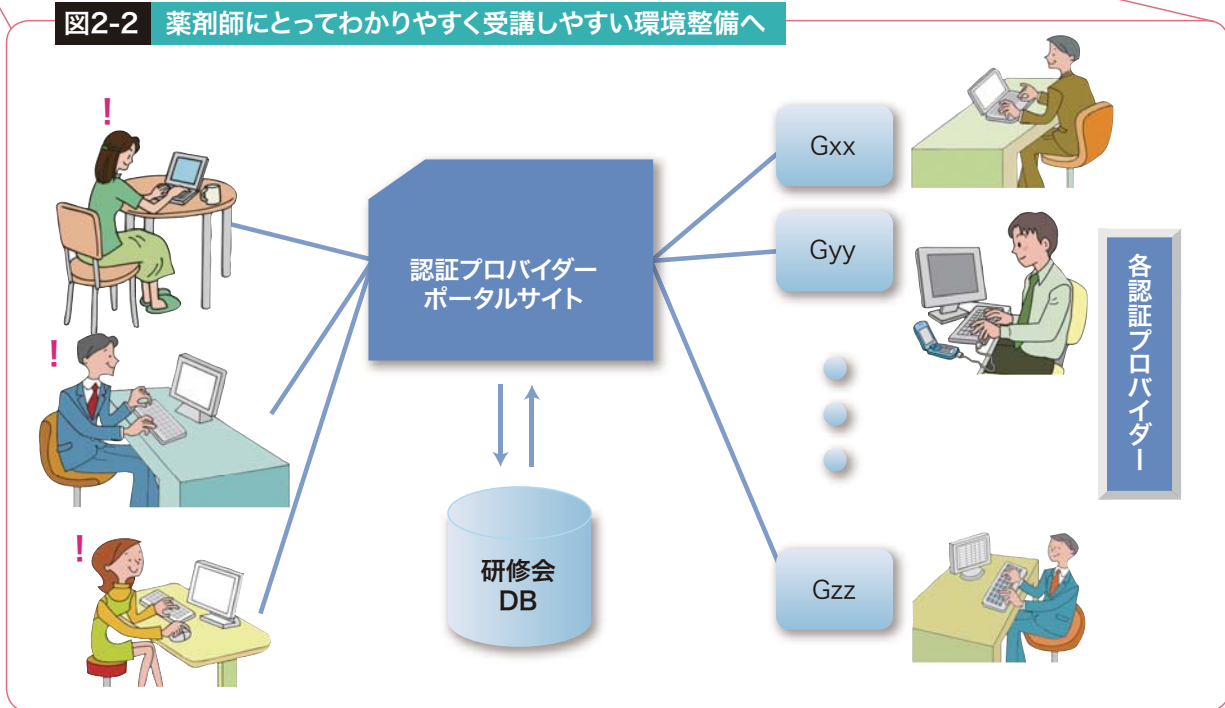


図2-2 薬剤師にとってわかりやすく受講しやすい環境整備へ



まだ検討すべき事項はありますが、新しくなった「認定薬剤師」という制度を理解し、活用していただくために色々な取り組みを進めて参りたいと思っておりますので、どうぞご期待下さい。

6年制導入で重要性増す生涯研修

私自身は医師ですが、現在の医療崩壊とも呼ばれる日本の医療環境を変えていくのは、薬剤師の職能拡大に尽きると考えています。近年のスキルミックスという言葉も薬剤師の職能拡大という概念に入るもので

す。薬学教育6年制も導入された今、従来の薬剤師の生涯研修は、他の医療職種以上に重要性を増していると思っています。薬剤師の高いポテンシャルを花開かせるような生涯研修の仕組みを、認証機構のもとに集まる認証プロバイダーとの密接な連携を通じて作っていきたいと考えています。